

三重大メダカ保全プロジェクト ～希少魚生息域外保全の新しい実施体制～

- 三重大学キャンパス内で発見されたメダカ(ミナミメダカ)をキャンパス内の池に放流して保全します。
- 保全池は漏水で使えなかったものを,クラウドファンディングによる支援で補修しました。
- 大学,教員,同窓会,現役学生(学生サークル)による協同体制は,希少魚の生息域外保全の新しい形です。

【概要】

環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているメダカ(ミナミメダカ)について,三重大学構内で発見された個体に基づいて,三重大学キャンパス内の池で生息域外保全を始めました。

【プロジェクト内容】

生物は同種でも地域ごとに特性が異なることから,保全は各地域の個体群について系統保存が行われるべきです。本学周辺でも激減しているミナミメダカを,本学構内で生息域外保全することを目的としています。生息域外保全による系統保存には,“場”と“人”の継続性が重要ですが,大学,現役学生,同窓会の協同はそれを満たす新たな実施体制といえます。

【今後の展望】

このプロジェクトの最大の難関であった保全池の補修は,クラウドファンディングで支援を集めることにより実施することが出来ました。今後はよりメダカにとって住みやすい環境を整備するとともに,三重県絶滅危惧種ⅠA類のトウカイヨシノボリの系統保存もこの池で行いたいと考えています。

【用語解説】

- ・系統保存:種より詳細な個体群等の集団レベルで同系統の個体を排他的に飼育し,継代繁殖させていくこと。
- ・生息域外保全:その生物の本来の生息場所以外の場所で行う保全。



クラウドファンディングで補修し,三重大メダカを放流した保全池

<本件に関するお問合せ>
三重大学生物資源学部 淀 太我
TEL: 059-231-9525
E-mail: tyodo@bio.mie-u.ac.jp

メダカの現状

○日本に分布するメダカは2種



キタノメダカ



ミナミメダカ

- 生息環境の悪化・消失
- 外来魚による捕食・競合

▶ 両種とも、環境省RLで
絶滅危惧II類に指定

○他地域個体や改良品種の放流問題



ヒメダカ(ミナミメダカ)

- 他地域個体の放流による
地域の固有性(遺伝的多
様性)の損失
- 改良品種の放流による生
残に不利な形質(例:派手
な色)の導入, 遺伝的多様
性の損失

メダカは危機的な状況

カダヤシの脅威



○カダヤシ

- 特定外来生物(北米原産)
- 体長3cm前後
- 蚊の幼虫(ボウフラ)駆除による伝染病対策のため世界各地に導入
- 日本では福島県から沖縄県の広範囲に生息
- メダカ類に対して, 餌の競合や攻撃行動などで被害を及ぼす
- 三重大学構内の水路で2009年頃に確認。2年ほどでミナミメダカはほぼみられなくなった

三重大メダカの発見と生息域外保全

○水生生物飼育展示サークルaquri-M

- 2017年度設立の公認サークル(顧問:淀)
- 三重県内の水生生物を採集・飼育・展示し, 地域の生物多様性を知ってもらう

○2019年にaquri-Mメンバーが本学構内の水路でミナミメダカを発見

- 約20個体を採集し, 飼育下での繁殖による系統保存を開始
(生物資源学部附属の実験水槽群)
→三重大メダカ

○系統保存＝ノアの箱舟

この地域のメダカが絶滅してしまったときはここから復活させられる(野生復帰)



生息域外保全と家魚化リスク

○家魚化

- 飼育下で人が強く関与(餌やりなど)して繁殖を繰り返すと, 警戒心が薄いといった性質が遺伝的に固定されてしまう



家魚化されたメダカ(ヒメダカ)とされていないメダカ(三重大メダカ)の動画

より自然に近い環境での系統保存

- 家魚化しないよう, できるだけ人の関与しない状態で三重大メダカが安定して生息・繁殖できる環境の構築が望ましい
→一定以上の規模の池であれば可能
- 三重大学構内にある「三翠会館」に付随する三翠庭園に池がある(同窓会管理)
- 使用の許可は下りたが, 漏水していて冬季には水が涸れる



より自然に近い環境での系統保存 (三翠庭園の池の使用とクラウドファンディング)

- 補修に必要な費用を, 三重大学クラウドファンディングの仕組みを活用して募る
- クラウドファンディング支援金は盗難や放流の監視のための防犯カメラにも使用

絶滅危惧種“三重大メダカ”とトウカイヨシノボリの保全池を整備したい

淀 太我 (三重大学生物資源学部海洋生物資源学科 准教授)



寄付総額
2,265,000円 目標金額 1,550,000

寄付者 募集終了日
209人 2021年9月30日

フォローする

プロジェクトの相観をする



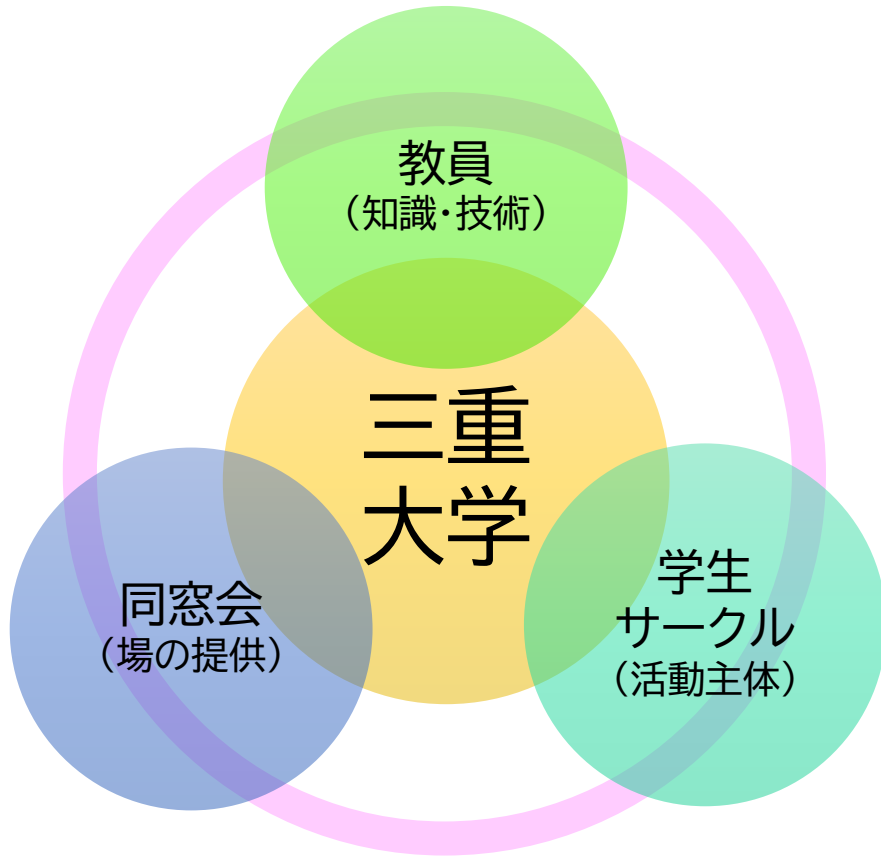
返礼品(クリアファイル)



2022年6月23日に
三重大メダカを放流

1. 対象種が健全に生息できる飼育環境
 2. 対象種個体群が安定して維持できる飼育規模
 3. 管理者の専門知識
 4. 1～3の継続性
- これまで、域外保全は動物園・植物園・水族館・博物館・NPO・自治体などが主となって実施してきた
 - 最近はCSRの一環として企業が実施するケースも増加

三重大メダカ保全プロジェクトの優位性



1. 国立大学という組織や場としての高い継続性
2. 専門家としての教員の存在と継続性
3. 活動の実施主体としての学生(サークル)の存在
4. 個人としての教員や学生は退職・卒業等するが、教育組織やサークルとして継続性が確保
5. 退職者・卒業生も同窓会として関与の継続が可能



高い安定性と継続性をもって、
半永久的に系統保存を行う事が可能